

1 調査日 平成 25 年 7 月 30 日（火）

2 調査の概要

( 1 ) 県立近代美術館（大津市瀬田南大萱町）

県立近代美術館は、昭和 59 年の開設以来、美術作品の収集、保管、展示の機能を果たしてきたが、展覧会観覧者数が長期的に減少傾向にあることなどの課題が顕在化する一方で、美術を通じた子ども達への教育機能や地域社会への貢献など、公立美術館に求められる社会的役割や期待も増大してきている。

県では、既存の施設の改修ならびに新館の増設により、「美の滋賀」の拠点となる新生美術館として整備する計画の検討を行っている。

こうしたことから、公共交通機関によるアクセス、増設予定地、施設の概要および運営状況について調査した。

委員からは、バス停からの案内を改善する必要があるなどの意見が出された。



( 2 ) ボーダーレス・アート・ミュージアム NO - MA（近江八幡市永原町上 16）

2004 年に開館した「ボーダーレス・アート・ミュージアム NO - MA」は、近江八幡市の歴史ある伝統的建造物群保存地区にあり、昭和初期の町屋の和室や蔵などを活かして改築したもので、滋賀県社会福祉事業団が運営するミュージアムである。

NO - MA は、障害者の絵画、陶芸などの表現に芸術性を見だし、その作品の保存・活用および人材の育成を行うなど、全国に先駆けてアール・ブリュットの振興に取り組んできている。

県では、アール・ブリュットについて滋賀ならではの美の一つとして新生美術館への常設展示を検討しており、施設の概要等について調査した。

併せて、アール・ブリュット関係者の方々と県民参画委員会を実施し、アール・ブリュットの今後の展開、障害者福祉と芸術の関係、アール・ブリュット作品の創作活動および展示などについて、意見交換を行った。



アール・ブリュット関係者からは、アール・ブリュットの広がりについて説明があり、 収蔵場所の確保、 相談支援機能の充実、 作者の権利に関する啓発、 人材の育成、 関係者間の交流支援、 芸術活動への参加促進、 障害者にとどまらない取り組みといった課題があること、また、まずは作品をみてもらうことが大切である、展示する機会があると創作する障害者にいい効果があるといった意見が出された。

### (3) 蒲生スマートインター工事現場（東近江市木村町）

蒲生スマートインターは、八日市～竜王間の中間地点で、県道土山蒲生近江八幡線と結び、高速道路の利便性向上および地域活性化が期待されている。25年度末の完成を目標に工事が進められていることから、工事概要および進捗状況について調査した。

